

令和5年度 教育課程特例校実施状況（自己評価・学校関係者評価）

1. 教育課程特別校としての取り組み

本校では、多様性を重視し様々な履歴を持った生徒たちを受け入れ、彼らの能力や適性を更に伸ばす教育環境を提供している。多くの帰国生、外国籍生徒、二重国籍生徒などが在籍し数学・理科・社会の3教科を英語でのイメージョン教育を行うことで総合的な英語力の進捗を図り、共に協力して、学び合う多様な教育を実践している。

2. 学校評価（自己評価並びに学校関係者評価）

		自己評価	学校関係者評価	
	評価	現状・課題・反省	総合評価	意見・要望
指導体制	A	本校には、13名の外国人教員が勤務している。日本人教員と同様にHRクラス担任や授業教科指導などお互いに連携をしながら生徒指導・保護者会・授業カリキュラム・指導案・試験などの作成を行っている。本校では、外国人教員をIC-staffと呼び、彼らの授業力や指導力などを向上させるために統括する主任を設置して本校独自の教育を実践している。	A	<p>多彩なバックグラウンドの同級生たちに囲まれて日々生活することで、他者を尊重する精神を自然と学んでいる。海外の学校に慣れた帰国生にとって、自由に発言できる雰囲気でも過ごしやすいためである。イメージョン教育であるために日本的な考え方にも触れることができ、相互に良い影響を与えていると思われる。日英どちらが優位でも教員は対等に扱っているし、生徒間でも互いを肯定する姿勢がみられ、安心して通わせることができる。部活動や委員会活動などで他学年との交流も多いが、おしなべて上級生が寛容である。下級生はそれを手本にすることで、生徒間にもよい間柄が築かれている。共学化する前も良質な教育がされてきたことが伺える。今まで学校が培ってきた人間教育の質の高さを、これからも大事にしたい。</p> <p>タブレット学習について。初めて出会った事柄について積極的に興味を持ち、自ら調べようという習慣が身につけてきた。課題にもタブレットが活用されており、家庭でも時間をかけて取り組む姿が見られる。デジタルネイティブである生徒たちにとって健全なIT機器との付き合い方が身につくよう、学校からも使用状況のチェックを続けてほしい。</p> <p>英語で学ぶ教科について。英語による記</p>
授業内容	A	PBLを中心として授業カリキュラム・指導案・試験を作成している。授業を始める前にトリガーアクション（問い）を与え、学習の関心度を高めて自ら学ぶ姿勢を重視している。授業は、C:創造的思考の問いを生徒に与え、各自が持つ知識から個人とグループでの討論とプレゼンテーションから授業を開始し、生徒の学習への関心度を高める工夫をしている。定期試験では、A:知性・知識、B:応用・発展、C:創造的思考のルーブリックを中心として作問されている。		
生徒への対応	A	HRでは、IC staffと日本人教員のダブル担任制を実施しており、英語と日本語での担任業務での連携を実施している。生徒だけでなく、保護者への対応も英語話者には、対応できるようになっている。授業では、PBLを中心に実施して生徒の学習意欲の向上を高める工夫を構築している。		
情報提供	B	学校HPや配布のパンフレット、学校説明会などにおいて本校の実践しているイメージョン教育を説明している。シラバスなどを学校		

		HPに公開しているが、進度や生徒の状況によって変更せざるを得ない場合があるため、改善が必要である。	
効果	B	朝学習（IXL アメリカの e-learning）や PBL 授業、定期試験や課題などを評価指標に加え、外部試験の TOEFL Jr.や IXL の試験などを活用して学力の進捗を測っている。英語力の向上に加えて、思考力（ロジカル・シンキング、クリティカル・シンキング、クリエイティブ・シンキング）やコミュニケーション能力などの向上に努めている。	<p>述の力が着実に身についている。討論や課題などアウトプットの機会が与えられることで、自分の考えをまとめたり、より伝わりやすい表現を考えるきっかけになっている。PBL は他者の考え方に触れることができ、授業の中でも特に楽しいとのことである。自然と学習内容に興味・関心を持つように授業が構成されている。</p> <p>広報活動について。PBL など独自色の強い授業計画は貴校の大きな強みであるが、PBL の良さは活字では伝わり切らないため、広報には動画や写真などをもっと活用するといいいのでは。学校 HP や文化祭など、さらに活用しうる場がまだまだあるように思われる。</p> <p>外部試験について。TOEFL Jr.は SG 生には適していると思われるが、AG 生にはあまり学習成果がわからないのではないか。AG 生には TOEFL や英検を受けさせて欲しい。漢検は自宅学習するにあたり良い目標となった。日本語の学習時間がおのずと少なくなってしまうため、自主学習や読書など継続的に奨励していただきたい。</p> <p>授業計画、外国語教員について。外国語教員との楽しいエピソードが多く、英語圏だけでない多文化への興味関心も育まれている。ダブル担任制は風通しの良さにも通じ、両担任がそれぞれに生徒と関わることで生徒が安心して生活できる環境になっている。課題が生まれる度に教師間で速やかに共有・検討する姿勢がみられ、学校全体としての対応が誠実である。何事にも教員が協力しあっていて、着実により良い教育環境が整えられてきていると感じている。</p>
その他		2025年度より高校 International Course Advanced において西オーストラリア州の教育プログラム（WACE: West Australia Certificate of Education）の導入を予定している。そのため、中学校のカリキュラムと使用教材を見直し、その準備を開始している。WACE の導入により本校の科目と WACE の科目の両方を履修することにより日本とオーストラリアの二か国の卒業取得が可能となる DDP(Dual Diploma Program)を実施する予定である。	

評価点

A:評価できる B: やや評価できる C: やや評価できない D: 評価できない